

KADOKAWA会長・角川歴彦が図書館の未来を語る！ 新しい文化施設「角川武蔵野ミュージアム」に込めた思いとは？ ～11月4日(水)「第22回 図書館総合展」でオンライン講演会開催～



株式会社KADOKAWA（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松原眞樹 以下 KADOKAWA）は、2020年11月1日（日）～30（月）の日程でオンライン開催される「第22回 図書館総合展」（<https://www.libraryfair.jp/>）において、角川歴彦取締役会長（角川文化振興財団理事長）による「図書館の新しい姿 武蔵野に根付く三館融合施設」と題したオンライン講演会を実施いたします。同イベントのテーマである図書館の未来について、および11月6日（金）にグランドオープンする「角川武蔵野ミュージアム」設立の構想についてお話しします。開催日はイベント期間中の11月4日（水）を予定しています。

このオンライン講演会は、ZOOMウェビナーで配信され、参加費無料で誰でも視聴することが可能です。図書館関係者はもちろん、出版やエンターテインメント業界に携わるビジネスパーソンから業界に興味のある人まで必見の内容です。

なお、今回の講演会で紹介する「角川武蔵野ミュージアム」とは、KADOKAWAが手掛ける日本最大級のポップカルチャー発信拠点でありイベントスペース、ショップ、レストラン、ミュージアムなどを内包する複合施設「ところざわサクラタウン」内に存在する文化施設です。

【開催概要】

タイトル：「図書館の新しい姿 武蔵野に根付く三館融合施設」

主催：株式会社KADOKAWA

開催日時：11月4日（水）14:00～15:30

会場・定員：Zoomウェビナーによるオンライン開催

参加費：無料

対象：図書館関係者、出版関係者、業界に興味のある一般の方・学生

お申し込み：<https://2020.libraryfair.jp/forum/2020/f113> ※申し込み締切：11月3日（火・祝）23:59

【内容】

国木田独歩が称揚した緑溢れる武蔵野の中心地・所沢に、「角川武蔵野ミュージアム」はどのようなコンセプトで建設されたのか。2万枚の岩のプレートで覆われた隈研吾の建築の内部で、松岡正剛や荒俣宏等ボードメンバーによって監修される4つのギャラリー、3つの図書館、1つの博物館が「三館融合」「High&Low」といったテーマの元で連結。KADOKAWA（角川文化振興財団）の発信拠点となる、まったく新しい文化施設をご紹介します。

【登壇者プロフィール】

・角川 歴彦（かどかわ つぐひこ）

株式会社KADOKAWA取締役会長。1966年角川書店入社。情報誌「ザテレビジョン」「東京ウォーカー」、ライトノベル「電撃文庫」「角川スニーカー文庫」など新規事業を立ち上げ、メディアミックスと呼ばれる手法で日本のサブカルチャー文化を牽引する一方、電子書籍ストア「BOOK☆WALKER」を開設する等、デジタル事業にも積極的に取り組む。

映画界においては製作総指揮として海外との合作映画にも取り組み、文化庁創立50周年式典では、芸術文化の振興に多大な貢献をもたらした人物として表彰される。

日本雑誌協会理事長、日本映像ソフト協会（JVA）会長、コンテンツ海外流通促進機構（CODA）代表幹事、東京国際映画祭チェアマン、内閣官房知的財産戦略本部本部員等を歴任。

現在、公益財団法人角川文化振興財団理事長、一般社団法人アニメツーリズム協会理事長、一般財団法人映画倫理機構評議員長なども務める。

著書に『クラウド時代と〈クール革命〉』（角川oneテーマ21、2010年）、『グーグル、アップルに負けない著作権法』（角川EPUB選書、2013年）、『躍進するコンテンツ、淘汰されるメディア』（毎日新聞出版、2017年）がある。



【参考URL】

角川文化振興財団：<http://www.kadokawa-zaidan.or.jp/>

角川武蔵野ミュージアム：<https://kadcul.com/>

ところざわサクラタウン：<https://tokorozawa-sakuratown.jp/>

【本件に関するお問合せ先】

株式会社KADOKAWA

KADOKAWAグループポータルサイト：<https://group.kadokawa.co.jp/>